

夕刊

立秋雜想

(二)白木英尾

新聞の女性相談

近頃どうかと思ふのは新朝氏にしては、山根菊子、田中孝子

の婦人欄を賑はしてゐる

女性身の上相談である。

に就いては今月、永代静

と具體的に彼女達を救つて

雄氏の新聞研究所で各方面

やれないものか」とお座な

の所見を訊いたが、應答者

の顔懶れと共に可なり興味

ある問題を残したやうであ

る、東都各紙があれを初め

の二氏共、女性の立場を擁

あるがどう見ても女なんて

から丁度満一年になるさ

うで、此間幾千人の女性の

悩みが粗上にのつたわけ

あるがどう見ても女なんて

いふのは莫迦に出来てるも

んだと思ふ。新居の格さん

でないが「よくも女といふ

奴は恥かしくもなく詰らぬ

ことを聞く奴だ」と感心す

るね、新聞社としてもあれ

二人の男に懲されたとか

只どうも近代人は獣奇趣味

があつて、目下のところは

どの新聞も確乎たる編輯方

針があるわけでないらしい

博士を喧嘩させてしまつた

騒ぎが起る。

今、この相談欄なるもの

に就てこの地方に多少緣故

ある鎌谷小波氏の所見を擧

げてみるとある種の方面

には好い読みものと認められ

が、時にはインチキな捏

物もあるやうで、それが又

到つて面白く人心を惹く

（蘇老泉）

民謡雜記

(四)

小濱牧泉

飛ぶ文を追ひつ捉へつ

夏座敷 鳴 雪

金子信三郎

金子信三郎

中支那官兵に虐殺された

五度六、三十年振りの暑

さ（同六）

社会の今日

吾妹子と共に藉きたる

彼の山の、薄も今は穂

管す（大正一）△齊藤實

子朝鮮總督に親任（昭和

八）△午砲を東京市へ移

水越蘆原（元津浦野

△死病災難者益蘭益大施

餓鬼法要（仙臺市公會堂

△正午 A 時報

△後〇〇五 植物（常陸丸）

△正〇〇六、〇〇〇B 運動

△正〇〇六、〇〇〇A 氣象

△正〇〇六、〇〇〇B 氣象

△正〇〇六、〇〇〇A 氣象

